

令和4年（2022年）3月定例会・一般質問

【本市におけるふるさと納税について】

◆大川秀徳

全国でも、ふるさと納税の利用者は年々増加しており、本市もその影響を受けている。より多くのふるさと納税の利用者に選ばれ、応援される市になるために、以下3点を伺います。

1点目、令和3年度の寄附の実績、件数、金額、寄附金額帯の割合、人気の返礼品、指定の多かった使い道はどうでしょうか。

2点目、ふるさと納税ポータルサイトごとの利用割合はどうでしょうか。

3点目、より多くのふるさと納税の利用者に選ばれ、応援される市になるために、今後、考えている展開や施策はありますか。

◎企画部長

大川議員のご質問、本市におけるふるさと納税についてお答えさせていただきます。

ふるさと納税制度は、納税者の方が応援したいと思われる自治体に寄附した場合、住民税や所得税が一定限度まで控除される制度として平成20年度から始まりました。

本市におきましては、ふるさと納税制度を利用した常滑市の魅力のPRや寄附促進を目的に、平成27年8月からふるさと常滑応援事業としてポータルサイトを立ち上げ、市外の寄附者の方を対象に特産品など返礼品の贈呈を始めました。その後も、返礼品の種類の拡充、体験型商品の追加、様々なオンライン決済サービスへの対応、大手ポータルサイトへの掲載などを行ってまいりました。そして、昨年12月には、新たに楽天ふるさと納税への掲載も開始し、寄附促進に努めているところでございます。

さて、1点目のご質問、令和3年度の寄附の件数、金額、寄附金額帯の割合、人気の返礼品、指定の多かった使い道の実績についてでございますが、令和3年4月から今年1月までの10か月間の集計では、件数で1,408件、金額で3,452万円でございます。また寄附金額帯の割合ですが、多い割合から申し上げますと、1万円以上2万円未満の寄附が949件で全体の約3分の2、67%と最も多く、2万円以上3万円未満が206件、15%、3万円以上4万円未満が96件、7%、4万円以上5万円未満が31件、2%と続きます。

人気の返礼品は、セントレアお買物券や市内飲食店のお食事券、市内ホテルの宿泊券など本市を訪れていただく体験型が576件で全体の約3割、29%と最も多く、次に猫の爪とぎやドックフードなどのペット関連商品が303件、15%、鬼崎や小鈴谷のノリが280件、14%と続きます。

寄附の使い道については、現在7つの選択メニューを設けています。指定の多かった使い道を金額順に申し上げますと、市長お任せが最も多く1,202万円、次に健康福祉が831万円、産業観光が526万円、教育文化が429万円、市民病院整備が229万円、環境が200万円、景観が35万円となっております。

ご質問の2点目、ポータルサイトごとの利用割合についてですが、本市では現在、ふるさとチョイス、JTBが運営するふるぽ、楽天ふるさと納税の3つのサイトから寄附を受け付けています。なお、ふるぽからの申込みについては、ふるさとチョイスと連携しているため、利用実績はふるさとチョイスの実績に含まれたものとなります。

楽天ふるさと納税は、昨年12月から掲載を開始したことから、年度での利用割合を単純

に比較することができませんが、12月以降の実績で比較しますと、ふるさとチョイスが件数では396件、56%、金額では1,056万円、64%。楽天ふるさと納税が、件数では314件、44%、金額では600万円、36%となっています。

ご質問の3点目、今後考えている展開や施策についてですが、ふるさと納税は、シティプロモーションの目的であります市の魅力発信と認知度、イメージ向上に資するとともに、市外の方々に寄附をしていただき、その寄附金を市の施策に活用するための重要な取組であり、この4月からはふるさと納税業務を企画部企画課から経済部魅力創造室に移管し、シティプロモーションの一環としてより積極的に施策を展開してまいりたいと考えております。

具体的な施策としましては、より多くの利用者に選ばれ、応援される市となるために、返礼品のさらなる拡充、ポータルサイトの追加、寄附金の有効活用、活用した事業のPRが重要と考えています。

返礼品の拡充については、農業、漁業、焼き物といった古くから常滑市に根差した産業に限らず、様々な分野で活躍されている市内の事業者に参加していただき、幅広く常滑市の地場産品や市内での体験型のものを取りそろえることを目指しております。

昨年6月には、出品基準となる寄附金額区分を1万円単位から1,000円単位にするなど細分化を行い、事業者が出品しやすい価格帯の環境を整えてまいりました。

来年度は、魅力創造室において特産品の開発、改良等に係る事業を支援する特産品開発事業を実施しますので、この事業によって開発、改良された特産品を新たに返礼品に取り入れるなど、より多くの事業者と連携を図りながら参加していただけるよう取り組んでまいります。

ポータルサイトの追加については、寄附額を増やすだけでなく、全国のより多くの人に常滑市の魅力を知っていただく機会を増やすため、主要なポータルサイトの追加や空港が立地する市として航空事業者が運営するポータルサイトの追加についても検討してまいりたいと考えております。

寄附金の有効活用については、令和4年度において、子育て支援として保育園等の老朽化した遊具の更新、観光振興として観光戦略プランに基づく観光事業、学校教育として全小中学校の音楽室へのエアコン設置など、寄附者の希望する用途に沿って16事業に9,953万円の寄附金を充てるよう、この3月議会に当初予算案として上程しているところでございまして、その後につきましても寄附者の思いに応えるよう、十分に活用してまいりたいと考えております。

活用した事業のPRについては、市ホームページ、SNS、記者発表などを積極的に利用して、活用実績を広く発信してまいります。

このように、寄附金を有効に活用し、また活用状況をPRすることによりまして、常滑市に寄附してよかった、常滑市をまた応援したいと思っていただけるようにしてまいりたいと考えております。